

| | | | | |
|---------|------------------------------------|--------|----|----|
| 氏名(本籍) | 田中直樹(茨城県) | | | |
| 学位の種類 | 博士(医学) | | | |
| 学位記番号 | 博甲第6628号 | | | |
| 学位授与年月日 | 平成25年3月25日 | | | |
| 学位授与の要件 | 学位規則第4条第1項該当 | | | |
| 審査研究科 | 人間総合科学研究科 | | | |
| 学位論文題目 | 部分面型歩行感覚提示装置を用いた歩行リハビリテーションの有効性の検討 | | | |
| 主査 | 筑波大学教授 | 医学博士 | 松村 | 明 |
| 副査 | 筑波大学教授 | 博士(医学) | 望月 | 昭英 |
| 副査 | 筑波大学教授 | 博士(医学) | 西浦 | 康正 |
| 副査 | 筑波大学准教授 | 博士(医学) | 江口 | 清 |

論文の内容の要旨

(目的)

歩行感覚提示装置を用いた歩行リハビリテーションの効果および有用性を検討することを目的とした。

(対象と方法)

対象は維持期脳卒中片麻痺患者とした。歩行感覚提示装置(GaitMaster:以下、GM)を用いた歩行リハビリテーション介入をGaitMaster Training(以下、GMT)、GMを用いない歩行リハビリテーションをNon-Training(以下、NT)と設定し、歩行速度、歩幅、タイムアップアンドゴーテスト(以下、TUG)、下肢筋力についてGMTとNTで比較した。また、脳卒中治療ガイドラインで推奨され、臨床で使用されている体重免荷トレッドミル歩行練習(以下、BWSTT)とGMTとの間で歩行速度、TUG、下肢筋力を比較検討した。

(結果)

GMTではNTに比べて歩行速度、歩幅、TUG、下肢筋力において有意な改善が認められた。GMとBWSTTとの比較では、歩行速度、TUGで有意差は認められず、下肢筋力についてのみGMTのほうがBWSTTに比べて有意な改善が認められた。

(考察)

GMTでは歩行能力、バランス能力、下肢筋力の改善が認められ、BWSTTとの比較では下肢筋力以外は有意な差は認められなかった。このことから、GMTは、歩行能力、バランス能力の改善を目的としたアプローチとして有用であることが示された。下肢筋力については、これまで用いられてきたBWSTTに比べて筋力改善を目的としたアプローチとしては効果的であるが、筋力改善の臨床的意義については更なる検討を要すると考えられた。また、GMTの改善の臨床的意義については、今後患者の主観的評価、理学療法士の労力軽減など、様々な指標を用いた観点からの研究を要すると考えられた。

審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は脳卒中慢性期の患者において新しいリハビリ装置である部分面型歩行感覚提示装置を用いてリハビリの効果改善について従来の装置との比較において有意に良好な改善項目が得られた。本研究は脳卒中リハビリにおいて新しい知見を得た有用な研究内容である。

平成 25 年 1 月 15 日、学位論文審査委員会において、審査委員全員出席のもと論文について説明を求め、関連事項について質疑応答を行い、最終試験を行った。その結果、審査委員全員が合格と判定した。

よって、著者は博士（医学）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。